



# G検定

---

# 説明手順

---

1. G検定ホームページの中程の動画を見る
2. その横の紹介資料の一部を紹介
  - p.19: G検定で身に付くこと
  - p.32: Di Lite推奨試験としてのG検定
  - pp.46-47: 生成AIの登場で急激に変化するビジネス環境⑤⑥



体系的にAI・ディープラーニングについて学び、おおよその仕組みや構造の理解や、活用に向けた関連知識の習得が出来ます。「AIで何ができて、何が出来ないのか」「AIを活用する上で何に気をつけるべきか」といった視点を得ることで、AIのビジネス活用の検討や、AIプロジェクトの推進を不安なく進めることができるようになります。

### Point 1.

AIの定義や  
様々な手法や仕組み  
について  
体系的に学べる

### Point 2.

法律や倫理の問題等  
AIのビジネス活用に  
必要な知識が身につく

### Point 3.

ビジネス活用事例等  
を通じて  
AIの活用イメージ  
を掴むことができる



## ・ “DX推進パスポート1・2・3”

「ITパスポート試験」に合格した上で、「DS検定リテラシーレベル」と「G検定」の取得を推奨。

## ビジネスパーソン “全員”



ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。  
ITの知識だけでなく、経営全般の知識、プロジェクトマネジメントの知識など、ITを活用するために必要な知識を習得できます。

※相当するITSSレベル定義 レベル1  
情報技術に携わる者に最低限必要な基礎知識を有します。情報技術に携わる者に最低限必要な基礎知識を有します。

## DX推進を目指す“全員”

DX推進を行う職場において、上位者の指導の下に、要求された作業を担当する人。  
DXを推進するプロフェッショナル人材となるために必要な基本的知識・技能を有する。

JDLA  
Deep Learning for  
GENERAL

AI・ディープラーニング領域について体系的に学び、適切な活用方針を決定して、事業活用する能力や知識を有しているかを証明する資格試験です。技術的手法から、法律、倫理、事例まで、活用のための知識を幅広く学ぶことができます。

データサイエンティスト検定  
リテラシーレベル ★

データサイエンティストに必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力についてそれぞれ見習いレベルの実務能力や知識、また、数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの実力を有していることを証明する資格試験です。

※相当するITSSレベル定義 レベル2  
上位者の指導の下に、要求された作業を担当します。プロフェッショナルとなるために必要な基本的知識・技能を有する。

# 生成AIでできること

## 情報抽出系

### 要約

小学生にも分かるように  
300文字程度で要約して

### 感情分析

喜び/怒り/悲しみの感情  
を0~5で表現して

### エンティティ分析

場所/人物名/組織名を抽  
出して

## 文脈理解系

### キーワード抽出

次の文章の重要なフレー  
ズを抽出して

### インサイト抽出

次のレビューから商品の  
改善点を考えて

## チェック系

### 校正

誤字/脱字/タイプミスを  
見つけて

### 添削/評価

〇〇の基準で10点満点  
で評価して

## 翻訳系

### 翻訳

次の文章をフォーマルな  
日本語に翻訳して

## 分類系

### テキスト分類

次のニュース記事のカテ  
ゴリを教えて

## 文章生成系

### 思考の壁打ち

〇〇という考えで抜けて  
いる点を指摘して

### 記述アシスタント

このメールの日程調整  
メースを書いて

### 問題作成

次の文章から4択問題を  
作成して

### アイデア創出

人気の出るブログの内容  
案を提案して

### コード作成

OpenAIのAPIを実行す  
るコードを書いて

### 情報検索

WEBアプリの要件定義に  
ついて教えて

従来からできるタスク

新しくできるタスク



# 生成AI導入で描かれる未来

AI=Copilotが人間とコミュニケーションを取りながらあらゆるサービス、API、プログラム、データベースと繋がり、自ら考え行動し目的を達成する

Phase 0  
高度な文書生成

あたかも人間と喋っているかのような柔軟な受け答えや、人間相当な高度な文書生成能力を獲得。



「自ら文書を作る」  
から  
「作られたものをレビューする」へ

Phase 1  
情報の集約・出力

情報探索時にソース候補の提示だけでなく、  
問いに対する複数の情報を自動集約し、  
ピンポイントに回答する。



膨大な文書から「探す」という  
行動からの解放

Phase 2  
デジタルツールとの  
自然言語コミュニケーション

プログラム言語⇄自然言語の実用レベルの変換  
により自然言語によりコンピュータやAPIと対  
話できる。



デジタルツールの使い方や  
手続きを知ることなく  
GPTを介して実行可能に

Phase 3  
動的なタスク計画と実行

入力プロンプトに応じて目的を達成するため  
のタスク計画が可能に。



実現プロセスを意識することなく  
GPTが目的を達成できる

# 授業との関係

---

- 3年生前期 火曜4限「機械学習」(担当:岡)と相補的
- 「機械学習」は、プログラムを動かしてみる演習を含む;数式も少しは使う